

長寿医療研究開発費 2025年度 総括研究報告

エイジ・フレンドリー・ホスピタル開発のための実証研究：施設環境デザインと接遇・コミュニケーションに着目して（24－30）

主任研究者 島田 裕之 国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター
(センター長)
(斎藤 民 国立長寿医療研究センター 老年社会科学研究部 (部長))

研究要旨

主任研究者

島田 裕之 国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター
(センター長)
(斎藤 民 国立長寿医療研究センター 老年社会科学研究部 (部長))

分担研究者

近藤 和泉 国立長寿医療研究センター 副院長室 (客員研究員)
飯田真由美 国立長寿医療研究センター 看護部 (副看護部長)
加賀谷 斉 国立長寿医療研究センター 病院 (副院長)
加藤 健治 国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンターロボット
臨床評価研究室 (室長)
宇田 和晃 国立長寿医療研究センター 老年社会科学研究部 (研究員)

A. 研究目的

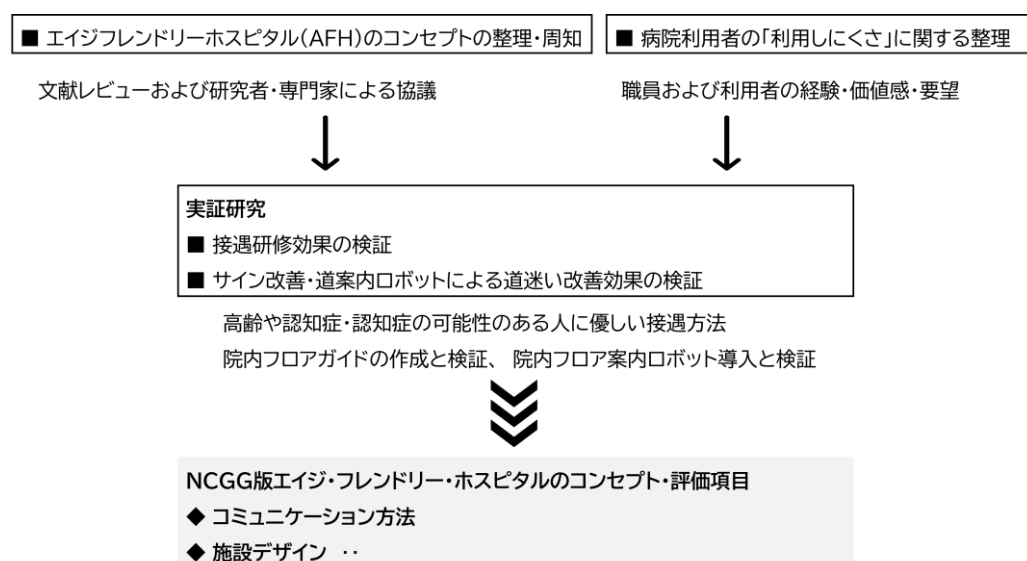
超高齢社会の進展に伴い、医療機関には、高齢者や認知症の人を含む多様な利用者が、安心して円滑に医療サービスを受けられる環境を整備することが求められている。こうした環境を実現するためには、診療やケアの質のみならず、院内の移動のしやすさ、情報のわかりやすさ、職員の接遇、コミュニケーション、設備・備品の使いやすさ、さらには新たな技術の活用を含め、病院全体を利用者の視点から総合的に見直す必要がある。

本研究では、看護部、リハビリテーション科、ロボット臨床評価研究室等の関連部門が連携し、高齢者にやさしい病院 (Age-friendly Hospital : AFH) の実現に向けたコンセプトおよび評価項目を整理するとともに、当センターにおける具体的な課題を把握し、改善策の開発および有用性の検証を行うことを目的とする。

具体的には、国内外の文献および既存の報告をもとに、AFHに求められる構成要素を抽出・統合し、医療提供、ケア環境、コミュニケーション、アクセス、サービス提供体制等を含む実務的な枠組みとして体系化する。あわせて、病院利用者から寄せられた意見や、職員による道迷い者への対応状況等を分析し、高齢者を含む利用者が院内で感じる「利用しにくさ」や、移動上の課題を明らかにする。

さらに、把握された課題を踏まえ、高齢者や認知症の人にもわかりやすいフロアガイドの作成・配布、サインやレイアウトの改善、職員を対象とした接遇研修プログラムの効果検証を行う。また、病院フロアに案内ロボットを導入し、来院者を目的地まで円滑かつ安全に案内できるか、来院者とのコミュニケーションを通じて待ち時間に対する負担感の軽減や来院時の体験向上に寄与するかを検証する。

これらの取り組みを通じて、当センターにおけるAFHの実装可能性を検討するとともに、課題の把握、改善策の実施、効果検証からなる継続的な改善の基盤を構築する。さらに、本研究で得られた知見を、他の医療機関におけるAFH推進に活用可能な資料として提示し、将来的には福祉施設、商業施設、公共施設、交通機関等を含む地域社会全体の高齢者・認知症フレンドリーな環境整備に資することを目指す。



B. 研究方法

本研究では、高齢者にやさしい病院（Age-friendly Hospital : AFH）の実現に向け、文献レビューによるコンセプトの整理、院内環境の課題把握と改善、接遇研修の効果検証、案内ロボットの実証を行った。

AFHのコンセプト整理では、世界保健機関（WHO）および日本老年医学会が公表した資料を基盤文献とし、PubMed、Google Scholar等を用いて関連文献を追加収集した。抽出した構成要素について、研究者および作業療法士がKJ法を用いて類似概念の統合、表現

の簡約化、抽象度の調整を行い、システム、管理運営、環境、サービス等の観点から体系的に整理した。

院内環境の課題把握と改善では、職員を対象として、道迷い者への対応経験や業務への影響に関する無記名質問紙調査を実施した。また、病院利用者から寄せられた投書进行分析し、構造面および接遇面に関する課題を抽出した。これらの結果を踏まえ、道迷いが生じやすい場所を重点的に掲載したフロアガイドを作成・配布し、利用者アンケートにより、視認性、可読性、理解性、利便性等を評価した。

接遇研修については、2024 年度に実施した研修の受講者を対象として、受講後の行動変化や今後の研修内容に関する要望を無記名質問紙調査により把握した。その結果をもとに研修内容を改善し、視覚、聴力、認知機能の低下がある利用者への対応に関する自己効力感等を研修前後で比較した。

案内ロボットの実証では、病院フロア内に案内ロボット（temi）を導入し、研究員が付き添って安全性を確認しながら運用した。院内地図の作成、動作確認、移動速度や来院者との距離の調整を行った上で、案内を受けた来院者やロボットに関心を示した来院者を対象としてアンケートを実施し、案内業務やコミュニケーションに関する意見を収集した。

（倫理面への配慮）

各調査および実証の内容に応じて、倫理・利益相反委員会の承認または倫理相談を経て実施した。質問紙は無記名とし、研究参加の自由意思を尊重するとともに、個人が特定されないようデータを適切に管理した。

C. 研究結果

AFH のコンセプト整理では、PubMed、Google Scholar 等による文献検索および基盤文献の検討を行い、対象文献を選定した。WHO Toolkit に基づく一次整理では、AFH に関連する構成要素は、システム、管理・運営、環境デザイン、サービスの 4 領域に整理された。さらに、採用文献の内容分析および KJ 法による質的統合を行った結果、高齢者にやさしい病院の構成要素として、10 のドメインと 61 の下位項目が抽出された。10 のドメインは、老年学的教育・研修、老年医学的予防アプローチ、病院ポリシー、協働体制、ハイリスク高齢者支援、病院システム、ユニバーサルデザイン、高齢者にやさしいデザイン、地域移行支援、老年医学的評価・介入であった。これらはさらに、評価・介入、病院ポリシー、多職種協働体制、病院システム、教育・研修、地域移行支援からなる 6 つの共通ドメインと、ハイリスク高齢者支援、施設設計、ユニバーサルデザイン、予防アプローチからなる 4 つの限定ドメインに整理された。

院内環境に関する調査では、職員および委託先職員を対象とした質問紙調査において 300 名から有効回答を得た。第一診療棟 B1 階ロビーおよび 1 階で道迷い者に対応した経験がある職員は 88%であり、対応場所は 1 階病棟・職員エレベーター周辺が最も多かった。道迷

い者の目的地は、病棟、玄関・受付・会計、売店が多く、対応経験のある職員の 31%が週 1 回以上対応していた。また、約 18%の職員が、道迷い者への対応による業務上の支障を経験していた。利用者からの投書分析では、79 枚の投書から 90 件の意見を分析し、受付周辺の通行しにくさや駐車場階段の手すり不足など、構造面および接遇面に関する課題が抽出された。

これらの結果を踏まえ、B1 階および 1 階を中心とした院内フロアガイドを作成した。フロアガイドは B4 判、両面カラー、三つ折り形式とし、棟間の連絡通路、診療棟ごとの色分け、エレベーターの行き先、院内表示に対応した場所の呼称等を掲載した。利用者評価では 650 部を配布し、81 件の回答を得た。視認性、可読性、理解性、利便性について、6 割から 8 割程度の回答者が肯定的に評価し、肯定的評価の割合は、視認性 69.1%、可読性 77.8%、理解性 62.9%、利便性 69.1%であった。一方で、80 歳代の理解性や視認性、60 歳代の利便性、付き添い者の理解性では、肯定的評価が相対的に低く、今後の改善点が示された。

接遇研修に関する調査では、2024 年度研修受講者のうち 51 名から回答を得た。視覚、聴力、認知機能に配慮した対応・接遇について、多くの受講者が実際の場面で実践できていることが確認された。また、精神行動症状への対応や、具体的な場面を想定した接遇など、より実践的な研修内容を求める意見が得られた。これを踏まえ、2026 年 3 月に、認知機能低下の体験方法や具体的な説明場面を想定した内容を追加した研修を職員 26 名に実施した。研修前後の比較では、視力低下、聴力低下、認知機能低下のある利用者への対応に関する自己効力感がいずれも向上した。研修のわかりやすさ、患者への有用性、体験学習の継続的導入の必要性、研修全体の満足度についても、全体として高い肯定的評価が得られた。

案内ロボットの実証では、安全面の検討を踏まえ、来院者の密集が少ない 1 階エレベータホールおよび第 2 研究棟 1 階周辺を中心に実施した。5 日間、計 24 時間の試験的運用を行い、案内ロボットは病院スタッフに代わって約 83 分間の案内業務を担った。移動速度については、高齢者の案内には「ゆっくり」の速度が適している一方、付き添い者などには遅すぎる場合があり、利用者に応じた速度調整の必要性が示された。実証期間中、来院者および職員を含む計 113 名が案内ロボットと何らかのインタラクションを行った。アンケートでは、待ち時間の体感短縮や次回の来院意欲向上について、80%以上の組から肯定的評価が得られた。一方で、医療従事者の負担軽減については、病院スタッフへのアンケートを実施していないため、十分な確認には至らなかった。

D. 考察と結論

本研究では、高齢者にやさしい病院（Age-friendly Hospital : AFH）の実現に向け、文献レビューによるコンセプト整理、院内環境の課題把握とフロアガイドの作成、接遇研修の効果検証、案内ロボットの実証を行った。

文献レビューおよび質的統合の結果、AFH の構成要素として 10 のドメインと 61 の下位

項目が抽出され、さらに6つの共通ドメインと4つの限定ドメインに整理された。これにより、AFHは施設設計や案内表示等の物理的環境の整備にとどまらず、病院方針、職員教育、多職種協働、院内運用、評価・介入、地域移行支援を含む包括的な取り組みであることが示された。今後は、各ドメインに対応する具体的な評価項目を作成し、現状把握、優先課題の設定、改善、効果検証に活用できる枠組みへ発展させる必要がある。

院内環境に関する調査では、多くの職員が道迷い者への対応を経験しており、新旧棟の連絡部、エレベーター周辺、売店周辺等、構造が複雑で経路を判断しにくい場所で道迷いが生じやすいことが示唆された。また、道迷い者への対応は職員の業務負担にも影響していた。利用者からの投書では、受付付近の混雑や階段の手すり不足等、案内表示のみでは解決できない課題も抽出された。AFHの実現に向けては、案内表示、移動動線、安全設備、受付周辺の環境等を含め、利用者の視点から院内環境を継続的に見直す必要がある。

これらの結果を踏まえて作成したフロアガイドは、視認性、可読性、理解性、利便性について、おおむね肯定的に評価された。一方、理解性は他の項目と比較して肯定的評価が低く、特に高齢者や付き添い者にとって、地図上の情報から実際の移動経路を判断することには難しさが残る可能性が示された。今後は、文字サイズや配色、情報量、ピクトグラム、現在地表示、経路の単純化等を検討するとともに、フロアガイドと院内表示を連動させることが重要である。

接遇研修では、視覚、聴力、認知機能の低下に配慮した対応について、多くの受講者が実際の場面で実践していることが確認された。また、内容を改善した体験型研修では、研修後の自己効力感が向上し、わかりやすさ、有用性、満足度について高い評価が得られた。体験学習を取り入れた研修は、高齢者や認知症の人への理解を深め、日常業務における行動変容を促す可能性がある。今後は、精神行動症状への対応や、具体的な場面を想定した演習を充実させ、職種や部門の特性に応じた研修へ発展させる必要がある。

案内ロボットの実証では、安全性に配慮した運用のもと、ロボットによる案内業務の実施可能性が確認された。来院者からは、待ち時間の体感短縮や再来院意欲の向上について肯定的な評価が得られ、病院内における案内やコミュニケーションの支援手段として活用できる可能性が示された。一方、高齢者と付き添い者では適切な移動速度が異なることや、画面の見やすさ、操作性、ロボットの大きさ等に改善の余地が認められた。また、職員の負担軽減効果や、複数台を運用する際の費用対効果については、今後さらに検証する必要がある。

本研究の結果から、AFHの推進には、施設や設備等のハード面と、接遇、情報提供、院内運用、教育、多職種連携等のソフト面を相互に関連づけて改善することが重要であると考えられた。比較的着手しやすい案内表示、説明資料、フロアガイド、接遇研修等の改善を進めるとともに、中長期的には施設改修、ユニバーサルデザイン、新たな技術の導入等も検討する必要がある。

なお、本研究では、各取り組みの対象者数や評価方法が限定されており、自己報告に基

づく評価も含まれている。今後は、患者、家族、付き添い者、職員等の多様な視点を取り入れ、行動観察や利用者満足度、業務負担等を含む客観的な指標を用いて、改善効果を継続的に検証する必要がある。

以上より、本研究では、NCGG 版 AFH の基本的な枠組みを整理するとともに、院内環境、接遇、案内支援に関する具体的な改善策の実装可能性を示した。今後は、課題の把握、優先順位の設定、改善策の実施、効果検証からなる PDCA サイクルを構築し、当センターにおける AFH の推進に加え、他の医療機関や地域社会における高齢者・認知症フレンドリーな環境整備に活用できる形へ発展させることが望まれる。

E. 健康危険情報

なし

F. 研究発表

1. 論文発表

1. Taiji Noguchi, Satoko Fujihara, Kazushige Ide, Seungwon Jeong, Tami Saito, Katsunori Kondo, Toshiyuki Ojima. Role of age-friendly communities on the association between informal caregiving and depressive symptoms: a multilevel analysis using the Japan Gerontological Evaluation Study. Aging & Mental Health, epub ahead of print, Mar 2, 2026.
2. Noguchi T, Jin X, Nakagawa T, Komatsu A, Saito T. Role of learning experiences of care knowledge and skills on caregiver burden and self-esteem among informal caregivers: an observational cross-sectional study. Aging and Mental Health, 23:1-10. 2026 Feb;30(2):393-402.
3. Xueying Jin, Ayane Komatsu, Taiji Noguchi, Takeshi Nakagawa, Sayaka Okahashi, Tami Saito. Xueying Jin, Ayane Komatsu, Taiji Noguchi, Takeshi Nakagawa, Sayaka Okahashi, Tami Saito. BMC Health Services Research, 26(1):284, Jan 28, 2026.
4. Hirakawa Y, Aita K, Saito T, Ishiyama R, Takanashi S, Shimada C, Miura H. Factors in Patient-Clinician Interactions That Influence the Decision-Making Process of Older Patients with Dementia. JMA J. 2026 Jan 15;9(1):173-179.
5. Hirakawa Y, Komatsu A, Saito T, Yamanaka T, Okochi J, Kuzuya M, Miura H. Provision of palliative care for patients with advanced dementia across various long-term care settings in Japan: a facility-based survey. J Rural Med. 2026 Jan;21(1):58-66.
6. Arisa Kawashima, Ayane Komatsu, Xueying Jin, Hiroyuki Shimada, Hidenori Arai, Tami Saito. Chronic pain and decline in activities of daily living among community-dwelling older adults: a systematic review of longitudinal studies.

Eur Geriatr Med. 2025 Dec;16(6):2085-2096.

7. Noguchi T, Komatsu A, Okahashi S, Nakagawa T, Jin X, Shindo Y, Saito T. Association between driving status and visiting places among older adults in a suburban area in Japan: Findings from a cross-sectional survey. Geriatr Nurs. 2025 Nov-Dec;66(Pt B):103626.
8. Arisa Kawashima, Xueying Jin, Ayane Komatsu, Sakino Niwa, Hiroyuki Shimada, Hidenori Arai, Tami Saito. Individual- and Facility-Level Factors Related to Quality-of-Life Transitions in Older Adults in Residential Facilities: A Systematic Review. J Am Med Dir Assoc. 2025 Aug;26(8):105721.
9. Ayane Komatsu, Tami Saito, Yoshihisa Hirakawa, Sanae Takanashi, Reiko Ishiyama, Kaoruko Aita, Hisayuki Miura. Decision-Making Support for People Living With Dementia: A Nationwide Cross-Sectional Study in Diverse Long-Term Care Settings in Japan. Psychogeriatrics, 2025 Jul;25(4):e70059.
10. Nakagawa T, Noguchi T, Komatsu A, Jin X, Okahashi S, Saito T. Stability and change in life satisfaction in Japan before and during the COVID - 19 pandemic. Applied Psychology: Health and Well-Being, 2025 May;17(2):e70021.
11. Tami Saito, Xueying Jin, Taiji Noguchi, Ayane Komatsu, Mariko Kanamori. Gender inequities in long-term care. World Health Organization, April 22, 2025.
12. Jin X, Kawaguchi K, Noguchi T, Kondo K, Saito T. Association of Indoor Environment with the Intention to Enter Nursing Homes among Older Adults with functional limitations in Japan. Journal of the American Medical Directors Association, 2025 Feb;26(2):105383.
13. Kawaguchi K, Saito T, Noguchi T, Kondo K. Housing Conditions and Quality of Life among Older Adults with Functional Limitations Living at Home: A Cross-Sectional Study from Japan Gerontological Evaluation Study-Home Care. Journal of Public Health, Dec16, 2024.
14. 斎藤民. 高齢者の Well-being. 月刊地域医学 2024 年 11 月号, 2024/11/10.
15. Noguchi T, Nakagawa T, Sugimoto T, Komatsu A, Kuroda Y, Uchida K, Ono R, Arai H, Sakurai T, Saito T. Behavioral and psychological symptoms of dementia and mortality risk among people with cognitive impairment: an 8-year longitudinal study from the NCGG-STORIES. Journal of Epidemiology. 2024 Nov 5;34(11):543-552.
16. 小松亜弥音, 斎藤民. 多様な療養場所における認知症の人への意思決定支援の現状と今後の課題. 日本老年医学会雑誌, 61(4):402-408, 2024/10/25.
17. Kuroda Y, Goto A, Uchida K, Sugimoto T, Fujita K, Yokoyama Y, Nakagawa T, Saito T, Noguchi T, Komatsu A, Arai H, Sakurai H. Association Between Cancer Screening Patterns and Carer Literacy in Individuals With Cognitive Decline: An

- Observational Study. *Cancer Medicine*, 2024 Oct;13(20):e70311.
18. Noguchi T, Jessica K Bone, Saito T, Kondo K, Hei Wan Mak. Arts and cultural engagement and subsequent social deficits among older adults: A three-year longitudinal study using the Japan Gerontological Evaluation Study. *Social Science & Medicine*, 356(8), 2024 Sep;356:117139.
 19. 石田敦子, 岡橋さやか, 植田郁恵, 李相侖, 中川威, 大沢愛子, 斎藤民. タブレット端末を用いた認知機能検査 NCGG-FAT の認知機能低下者における使用可能性の検討. *ヒューマンインタフェース学会論文誌*, 26(3) :341-350, 2024/8/25.
 20. Bone JK, Noguchi T, Mak HW, Fancourt D, Kondo K, Saito T. Does arts and cultural group participation influence subsequent wellbeing? A longitudinal cross-country comparison of older adults in Japan and England. *BMJ Public Health*, 2024 Aug 24;2(2):e000865.
 21. Noguchi T, Ikeda T, Kanai T, Saito M, Kondo K, Saito T. Association of Social Isolation and Loneliness With Chronic Low Back Pain Among Older Adults: A Cross-sectional Study From Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES). *J Epidemiol*. 2024 Jun 5;34(6):270-277.
 22. Sugimoto T, Sakurai T, Uchida K, Kuroda Y, Tokuda H, Omura T, Noguchi T, Komatsu A, Nakagawa T, Fujita K, Matsumoto N, Ono R, Crane PK, Saito T. Impact of Type 2 Diabetes and Glycated Hemoglobin Levels Within the Recommended Target Range on Mortality in Older Adults With Cognitive Impairment Receiving Care at a Memory Clinic: NCGG-STORIES. *Diabetes Care*, 2024 May 1;47(5):864-872.
 23. Sakaniwa R, Shirai K, Cadot D, Saito T, Kondo K, Kawachi I, Steptoe A, Hiroyasu Iso H. Socioeconomic status transition throughout life and risk of dementia. *JAMA Network Open*, 2024 May 1;7(5):e2412303.
 24. 島田千穂, 会田薫子, 沢田淳子, 石山麗子, 二神真理子, 平川仁尚, 斎藤民, 高梨早苗, 小松亜弥音, 三浦久幸. 特別養護老人ホームの看取りケアマネジメントにおける多職種役割分担の特徴. *厚生の指標*, 71(4) :19-27, 2024/4/18.
 25. Kuroda Y, Sugimoto T, Satoh K, Nakagawa T, Saito T, Noguchi T, Komatsu A, Uchida K, Fujita K, Ono R, Arai H, Sakurai T. Relationship between mortality and vitality in patients with mild cognitive impairment/dementia: An 8-year retrospective study. *Geriatr Gerontol Int*. 2024 Mar;24 Suppl 1:221-228.
 26. Komatsu A, Nakagawa T, Noguchi T, Jin X, Okahashi S, Saito T. Decision-making involvement and onset of cognitive impairment in community-dwelling older care recipients: a 2-year longitudinal study. *Psychogeriatrics*. 2024 Mar;24(2):195-203.
 27. Koga C, Saito T, Hanazato M, Kondo N, Saito M, Ojima T, Kondo K. Living in public

rental housing is healthier than private rental housing a 9-year cohort study from Japan Gerontological Evaluation Study. Scientific Reports. 2024 Mar 30;14(1):7547.

28. 伊藤大介, 斎藤民, 村田千代栄, 近藤克則. 高齢者における地域包括支援センター等への援助要請意図と地域のソーシャル・キャピタルの関連—マルチレベル横断研究—. 老年社会科学 2024;45(4):327-337.
29. Noguchi T, Nakagawa T, Jin X, Komatsu A, Togashi S, Miyashita M, Saito T. Development of a short form of the Japanese version of the Caregiver Reaction Assessment (CRA - J - 10) among informal caregivers of older adults. Geriatrics & Gerontology International. 2024;24(3):290-296.
30. Okahashi S, Noguchi T, Ishihara M, Osawa A, Kinoshita F, Ueda I, Kamiya M, Nakagawa T, Kondo I, Sakurai T, Arai H, Saito T. Dyadic Art Appreciation and Self-Expression Program (NCGG-ART) for People with Dementia or Mild Cognitive Impairment and Their Family Caregivers: A Feasibility Study. Journal of Alzheimer's Disease. 2024;97(3):1435-1448.

2. 学会発表

1. 中島由登, 李相侖, 宇田和晃, 斎藤民. 高齢者にやさしい病院の構成要素に関する文献レビュー：概念的枠組みの構築に向けて. 第4回日本老年療法学会学術集会. 2025/12/6. 東京都.
2. 牧 美里, 岡橋 さやか, 小松 亜弥音, 進藤 由美, 李 相侖, 斎藤 民. フロアガイドの作成と有用性に関するアンケート調査：エイジ・フレンドリー・ホスピタルを目指して. ヒューマンインタフェースシンポジウム 2025. 2025/9/12. 石川県.
3. 岡橋 さやか, 牧 美里, 大浦 智子, 植田 郁恵, 小松 亜弥音, 進藤 由美, 李 相侖, 大沢 愛子, 斎藤 民. 一商業施設における表示の改良による使用しやすさに関する調査：認知症の人にもやさしい環境に向けて. ヒューマンインタフェースシンポジウム 2025. 2025/9/12. 石川県.
4. 小松亜弥音, 野口泰司, 金雪瑩, 岡橋さやか, 斎藤民. 軽度・中等度要介護者への介護サービス提供における共有意思決定の実施上の困難. 日本老年社会学会第67回大会. 2025/6/29. 千葉県.
5. 野口泰司, 中川威, 金雪瑩, 小松亜弥音, 斎藤民. 家族介護者の経済的負担と自死念慮の関連-社会的つながりの緩和影響-. 日本老年社会学会第67回大会. 2025/6/29. 千葉県.
6. 佐久間直美, 瀬瀬伸子, 飯田真由美, 燕真理子, 加賀谷斉, 近藤和泉, 斎藤民. 日本老年看護学会第30回学術集会「高齢者と認知症の人にやさしい接遇研修の開発（第1報）」. 2025/6/29. 千葉県.

7. Taiji Noguchi, Hei Wan Mak, Jessica K Bone, Tami Saito, Daisy Fancourt. Motor dysfunction and mental well-being in later life: a longitudinal study in 15 countries. World Physiotherapy Congress 2025. May 31, 2025. Tokyo, Japan.
8. 野口泰司, 河口謙二郎, 藤原聡子, 金雪瑩, 近藤克則, 斎藤民. 要介護高齢者のアートエンゲージメントと主観的ウェルビーイング: JAGES_Home Care. 第 35 回日本疫学会学術総会. 2025/2/14. 高知県.
9. 斎藤民. 認知症の人の社会参加. 第 90 回教育講演. 2025/2/3. オンライン.
10. 斎藤民. Toward age- and dementia-friendly cities: Facilitating social participation in people with dementia. 5th Thailand Elderly Health Service Forum 2025. 2025/1/24. Bangkok, Thailand.
11. 斎藤民. Stigma, social participation, and well-being in people with dementia. Western Pacific Rim Consortium on Healthy Aging 2024. 2024/11/28. 愛知県.
12. 岡橋さやか, 小松亜弥音, 中川威, 野口泰司, 金雪瑩, 進藤由美, 斎藤民. 認知症要介護者の外出行動の実態 (NCGG-UniCo) 第 2 報: 行きたい場所. 第 43 回日本認知症学会学術集会. 2024/11/21. 福島県.
13. 野口泰司, 小松亜弥音, 岡橋さやか, 中川威, 金雪瑩, 斎藤民. 地域在住高齢者における自動車運転と外出場所の多様性との関連: NCGG-UniCo プロジェクト. 第 11 回日本予防理学療法学会学術大会. 2024/11/9. 宮城県.
14. 小松亜弥音, 金雪瑩, 川島有沙, 斎藤民. 介護施設入所者の QOL 変化の関連要因: 系統的レビュー. 第 83 回日本公衆衛生学会総会. 2024/10/31. 北海道.
15. 小松亜弥音, 金雪瑩, 川島有沙, 斎藤民. 介護施設入所者における生活機能低下に関連する要因の検討: 文献レビュー. 第 83 回日本公衆衛生学会総会. 2024/10/30. 北海道.
16. 金雪瑩, 河口謙二郎, 野口泰司, 斎藤民. 要介護高齢者の住宅環境と介護施設入所意向: JAGES 在宅ケアとくらしの調査. 第 83 回日本公衆衛生学会総会. 2024/10/29. 北海道.
17. 小松亜弥音, 中川威, 野口泰司, 金雪瑩, 岡橋さやか, 進藤由美, 斎藤民. 認知症高齢者の外出行動の実態 (NCGG-UniCo) (第 1 報): 外出場所の特徴. 第 13 回日本認知症予防学会学術集会. 2024/9/28. 神奈川県.
18. 牧美里, 岡橋さやか, 小松亜弥音, 進藤由美, 斎藤民. 病院利用者における道迷いと対応状況に関する職員へのアンケート調査: 施設環境の改善案検討. ヒューマンインタフェースシンポジウム 2024. 2024/9/18. 京都府.
19. 岡橋さやか, 加藤健治, 霜鳥大希, 進藤由美, 斎藤民. 認知症高齢者と家族に対する交流型アートプログラム (NCGG-ART) の予備的効果検証: 会話及び心拍変動の分析. 生体医工学シンポジウム 2024. 2024/9/14. 東京都.
20. Taiji Noguchi, Jessica K Bone, Tami Saito, Katsunori Kondo, Hei Wan Mak.

Association between arts and cultural engagement and subsequent social deficits among older adults in Japan: a longitudinal study using the Japan gerontological evaluation study. Society for Social Medicine & Population Health 68th Annual Scientific meeting. 2024/9/4. Glasgow, United Kingdom.

21. 野口泰司, 金雪瑩, 中川威, 小松亜弥音, 斎藤民. 家族介護者における介護の知識や技術の習得経験と介護負担の関連. 第 3 回日本老年療法学会学術集会. 2024/8/3. 北海道.
22. 斎藤民. 認知症ケアと疫学. 第 25 回認知症ケア学会大会日本老年社会科学会共催シンポジウム「認知症ケアにおける老年社会科学の役割」. 2024/6/15. 東京都.
23. 小松亜弥音, 中川威, 野口泰司, 進藤由美, 内田一彰, 杉本大貴, 黒田佑次郎, 櫻井孝, 斎藤民. もの忘れ外来受診患者の家族が経験する患者の健康と生活に関する困難な意思決定: NCGG-STORIES. 日本老年社会科学会第 66 回大会. 2024/6/1. 奈良県.
24. 斎藤民. 指定討論「自然と健康になるまちづくり」. 日本老年社会科学会第 66 回大会. 2024/6/1. 奈良県.

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし